

7. 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

大滝ダムにおける水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。

作業のフローは、図 7.1.2-1 に示すとおりである。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握した。

また、大滝ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベントの内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から大滝ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理した。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

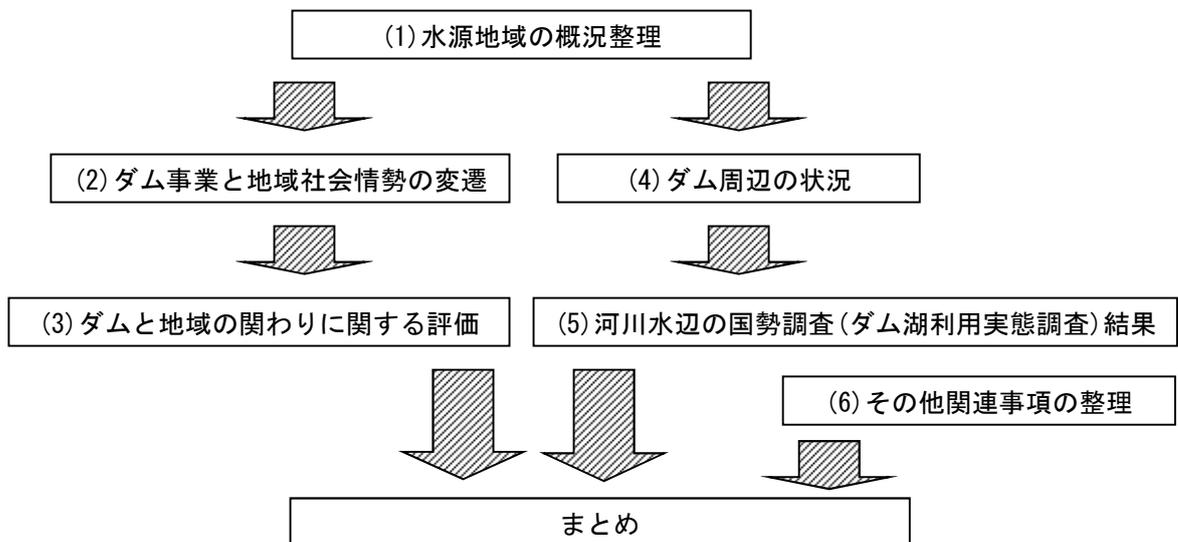
なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理することとなっているが、大滝ダムでは「ダム湖利用実態調査」は未実施である。

(6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。



注：大滝ダムでは「ダム湖利用実態調査」は未実施。

図 7.1.2-1 評価手順

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の位置

大滝ダムは河口から約 100km、標高約 330m 地点に位置する。

大滝ダム周辺の水源地域市町村の状況は、図 7.2.1-1 に示すとおりである。

大滝ダムが位置する紀の川は、日本の中でも最多雨地帯として知られる大台ヶ原から始まり、支川を集めながら中央構造線に沿って流れ紀伊水道に注ぐ流域面積 1,750km² の一級河川である。

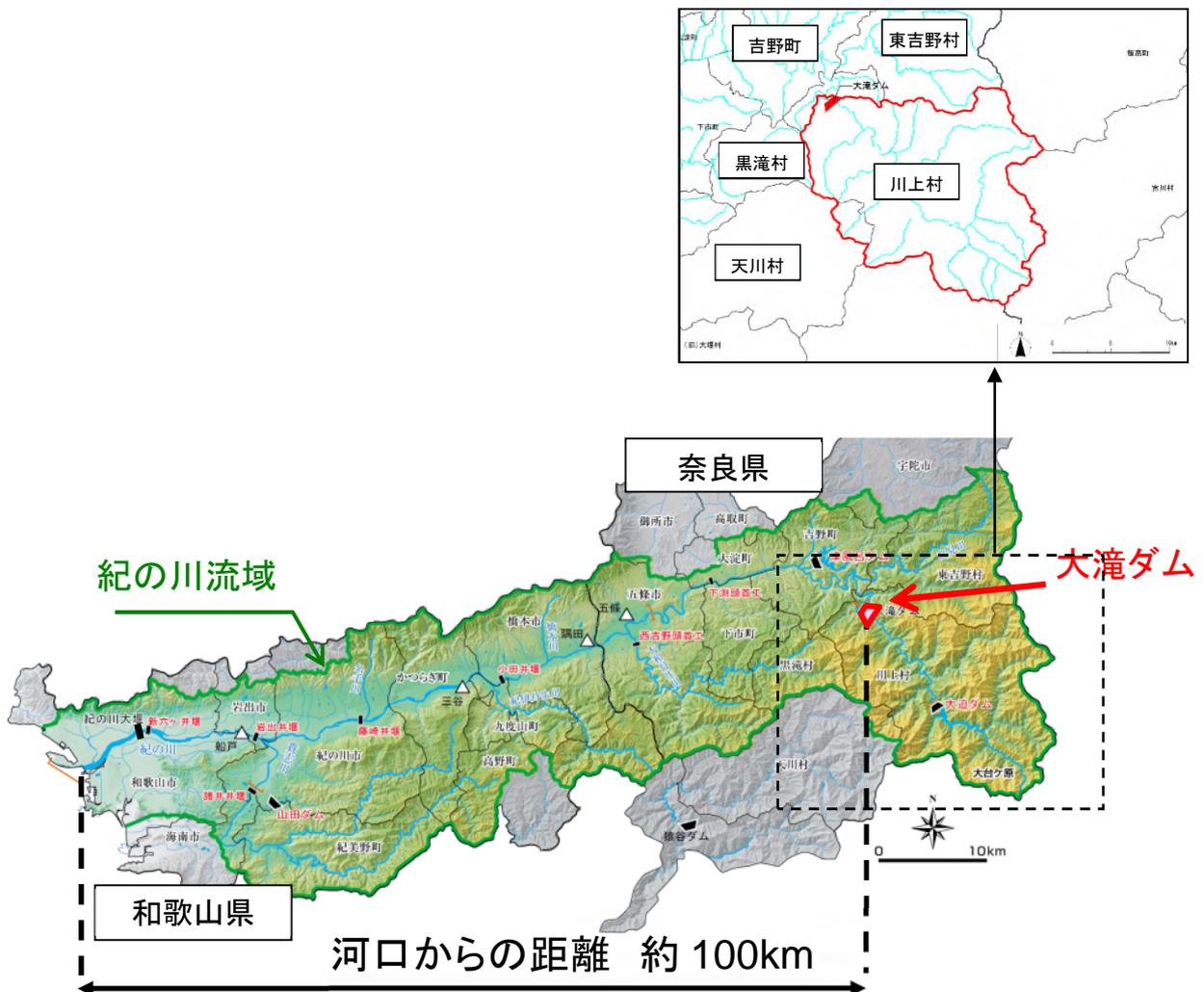
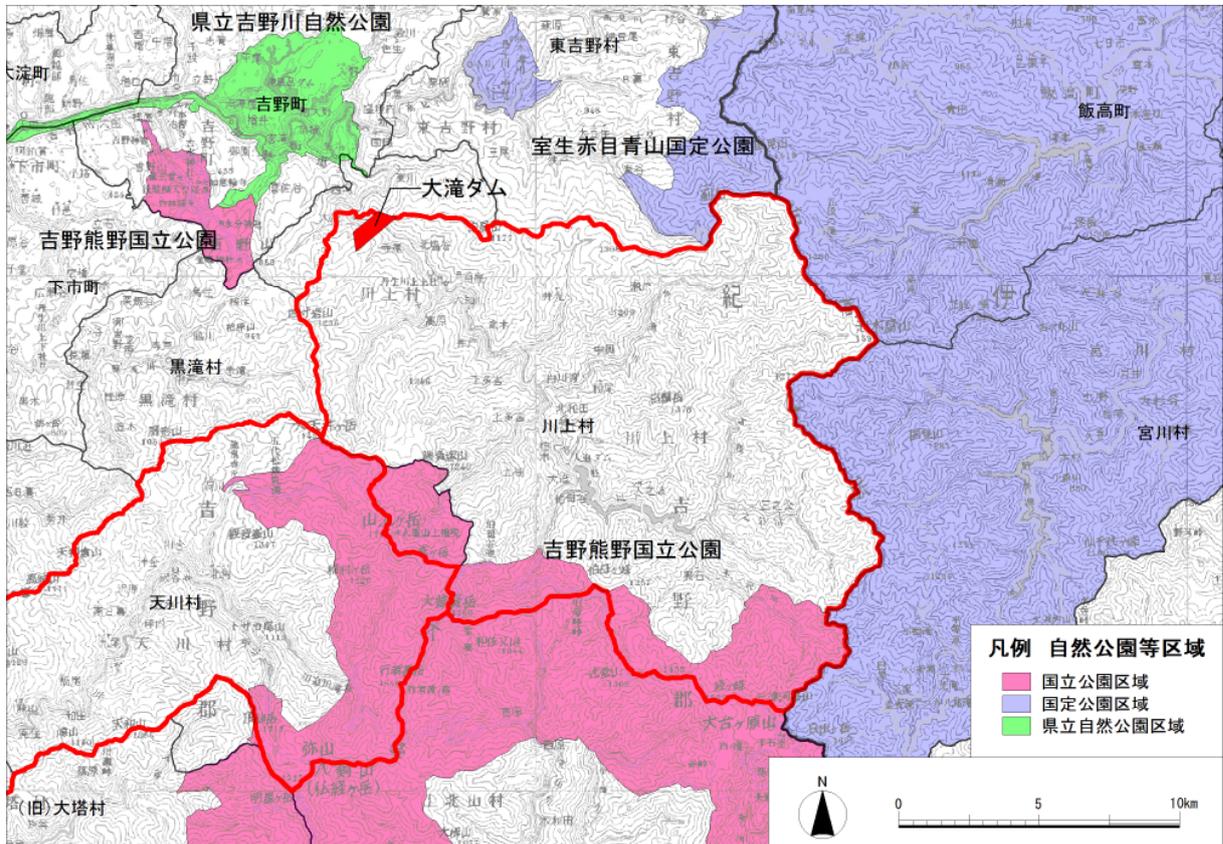


図 7.2.1-1 大滝ダム周辺の水源地域

(2) 自然公園等

大滝ダム近傍の自然公園等の指定状況を図 7.2.1-2 図 7.2.1-3 に示す。

大滝ダム近傍は、吉野熊野国立公園、室生赤目青山国立公園、県立吉野川自然公園に指定されている。



(出典：奈良県自然公園等区域図より作成)

図 7.2.1-2 大滝ダム周辺の自然公園等

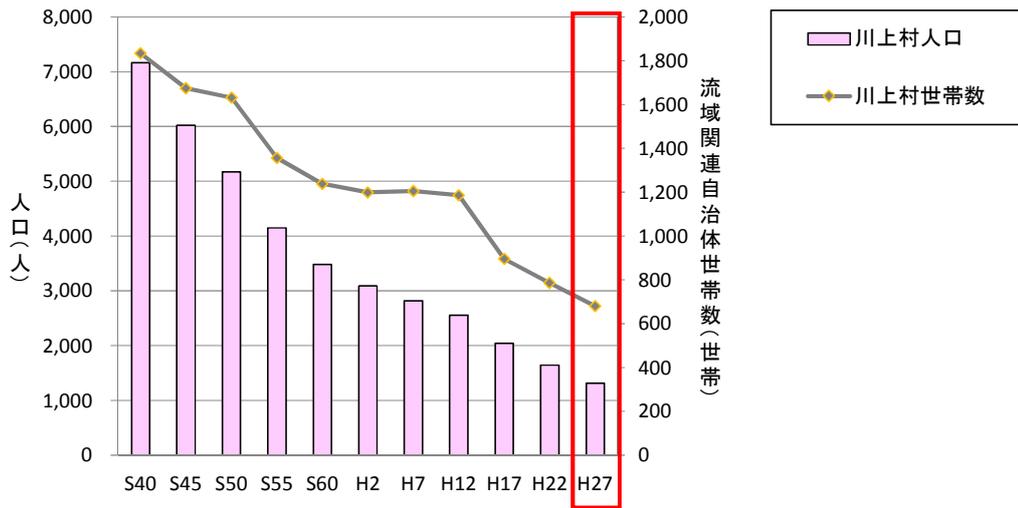
(3) 水源地域における人口・産業構造・事業所数

1) 総人口・総世帯数

大滝ダム水源地域を構成する川上村の人口・世帯数の推移を図 7.2.1-3 に示す。

川上村では、人口の減少が続き、昭和 40 年の 7,200 人程度から平成 27 年には 1,300 人程度に減少した。

世帯数についても減少が続き、平成 2 年から平成 12 年の減少は少なかったが、その後の減少は大きくなっている。



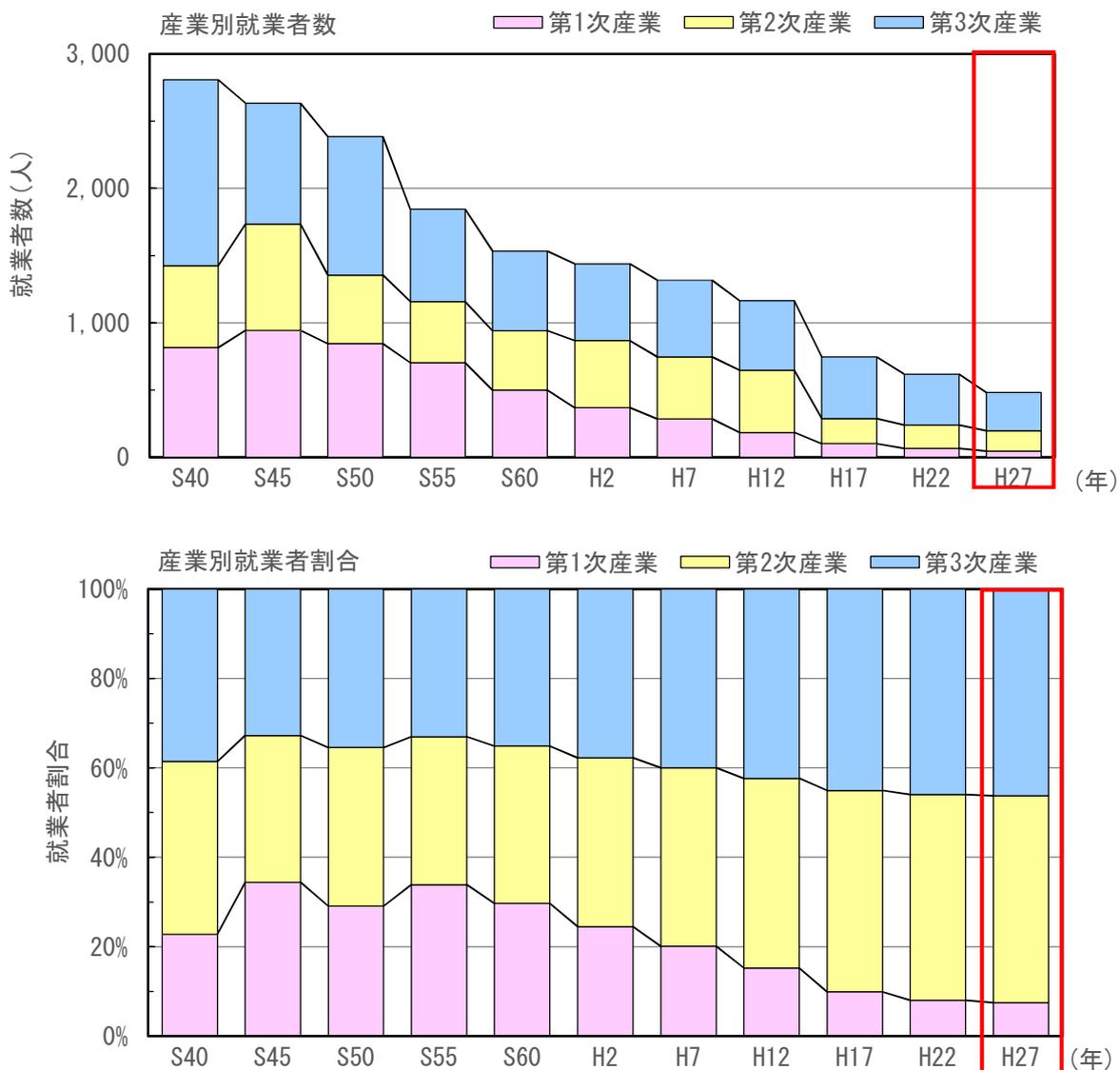
(出典：国勢調査結果より作成)

図 7.2.1-3 大滝ダム水源地域を構成する川上村の人口の推移

2) 産業別就業人口

大滝ダム水源地域を構成する川上村の産業別就業人口を図 7.2.1-4 に示す。

産業別就業者人口は、減少が続いており、産業別割合をみると、昭和 55 年以降、第 1 次産業が減少し、第 2 次産業、第 3 次産業の割合が増加する傾向がみられる。



※第1次産業
 …農業、林業、漁業
 第2次産業
 …鉱業、建設業、製造業
 第3次産業
 …電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・
 保険業及び不動産業、サービス業、公務、医療・福祉、教育・学習支援業

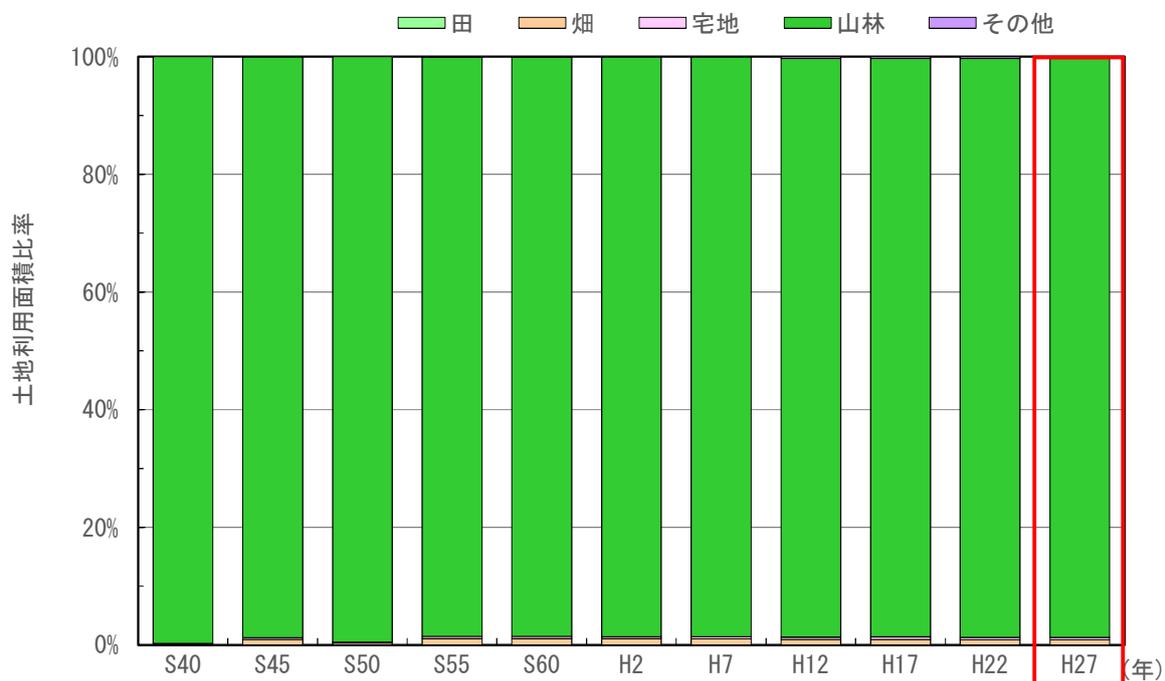
(出典：国勢調査結果より作成)

図 7.2.1-4 大滝ダム水源地域を構成する川上村の産業別就業人口

3) 土地利用割合

大滝ダム水源地域を構成する川上村の土地利用を図 7.2.1-5 に示す。

ほとんどを山林が占めており、山林以外の面積は2%に満たない程度である。

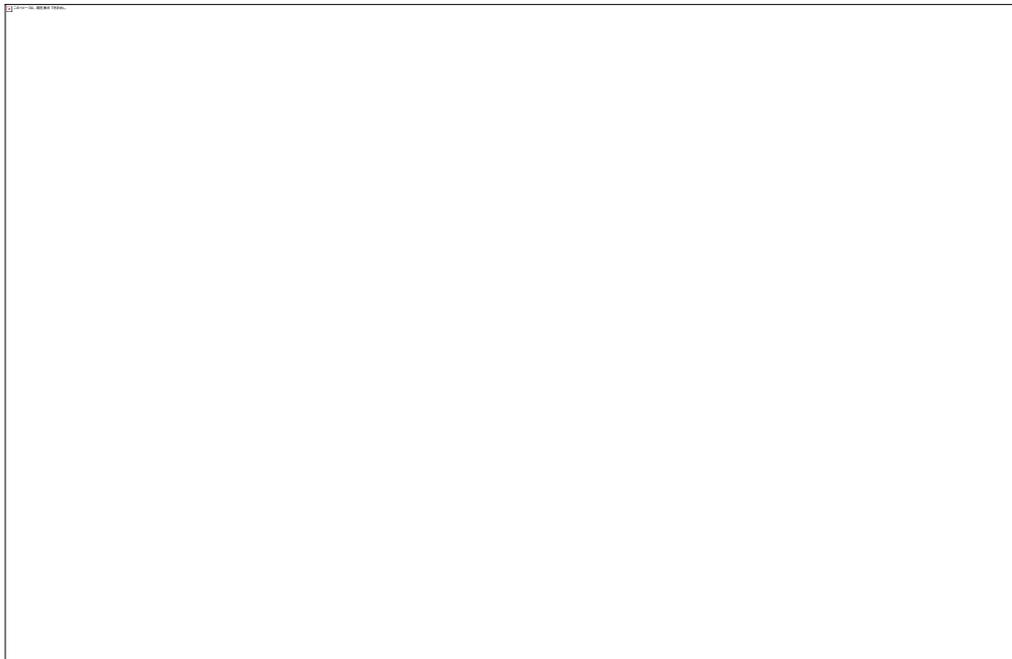


(出典：奈良県統計年鑑)

図 7.2.1-5 大滝ダム水源地域を構成する川上村の土地利用面積の割合

(2) ダム周辺の観光施設等

ダム周辺の観光施設位置については、図 7.2.2-2 に示すとおりである。
主な観光施設の概要について表 7.2.2-1 に示す。



(出典：紀の川ダム統合管理事務所資料)

図 7.2.2-2 大滝ダム周辺の観光施設位置

表 7.2.2-1 周辺の主な観光施設

施設名	施設名	概要
みふね 御船の滝		<p>大滝ダムの貯水池の上流にある滝で、高さは約50mであり、冬の氷瀑が見どころとなっている。</p>
せいれい 蜻蛉の滝		<p>とうとうと水しぶきをあげる名瀑は、高さ50mもありま、第21代雄略天皇を虻から救ったトンボ伝説と虹も有名な場所である。4月にはしだれ桜が美しく咲き誇る。 ・住所：奈良県吉野郡川上村西河</p>
不動窟鍾乳洞		<p>透き通って清冽な水は、不動窟内をこんこんと流れ落ちている。 その水源と行方はいまだ謎の神秘の滝である。</p>

(出典：紀の川ダム統合管理事務所ウェブサイト)

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

ダム事業の概要と地域での取り組みの変遷を表 7.3-1 に示す。川上村では水源地域を保全し、地域の活性化を図るために、受益地との交流活動等に力をいれており、平成 8 年 8 月 1 日には「樹と水と人の共生」をめざして、以下のとおり『川上宣言』を発信している。

- ・私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。
- ・私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- ・私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に触れ合ってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- ・私たち川上は、これから育つ子供たちが、自然の生命の躍動に素直に感動できるような場を作ります。
- ・私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

表 7.3-1 ダム事業の概要と地域での取り組みの変遷

年	事業内容	地域での取り組み
昭和37年	実施計画調査に着手（大滝ダム調査事務所発足）	
昭和40年	建設事業に着手	
昭和63年	本体工事に着手	
平成8年	本体コンクリート打設開始	全国に向けて「川上村宣言」を発信 「樹と水と人の共生」をめざす
平成10年	定礎式	近畿圏内5大学学生と林業体験により交流する「川上村木匠塾」の開始
平成11年		水源地の森の買い取り、保全 吉野川（紀の川）源流の三之公地区の500年以上も昔から手つかずの森の保全
平成12年		国土交通省のモデル事業「若者の地方体験交流支援事業」を経て地域づくりインターンシップ事業を開始。
平成14年	本体コンクリート打設完了	
平成15年	工事概成 試験湛水開始 白屋地区に亀裂現象発生 試験湛水中断	和歌山市との「水源地保護に関する協定書」締結
平成17年	地すべり対策工事に着手	
平成23年	地すべり対策工事完了 試験湛水開始 試験湛水完了	大和平野土地改良区より川上村に「おかげ米」が贈呈
平成24年		大和平野と水源地域との間にさらなる友好関係を育む「水のつながりプロジェクト」を開始
平成25年	運用開始	
平成26年		天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」が開催される
平成28年		古民家を改修し農家民宿の開業

（出典：川上村ウェブサイトより作成）

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

(1) 大滝ダム水辺地域ビジョンについて

『大滝ダム 21 世紀水源地ビジョン』は、ビジョンの策定及び推進に向けて、今後、検討を行っていく。

7.4.2 地域とダム管理者の関わり

地域とダム管理者との関わりを表 7.4.2-1 に示す。

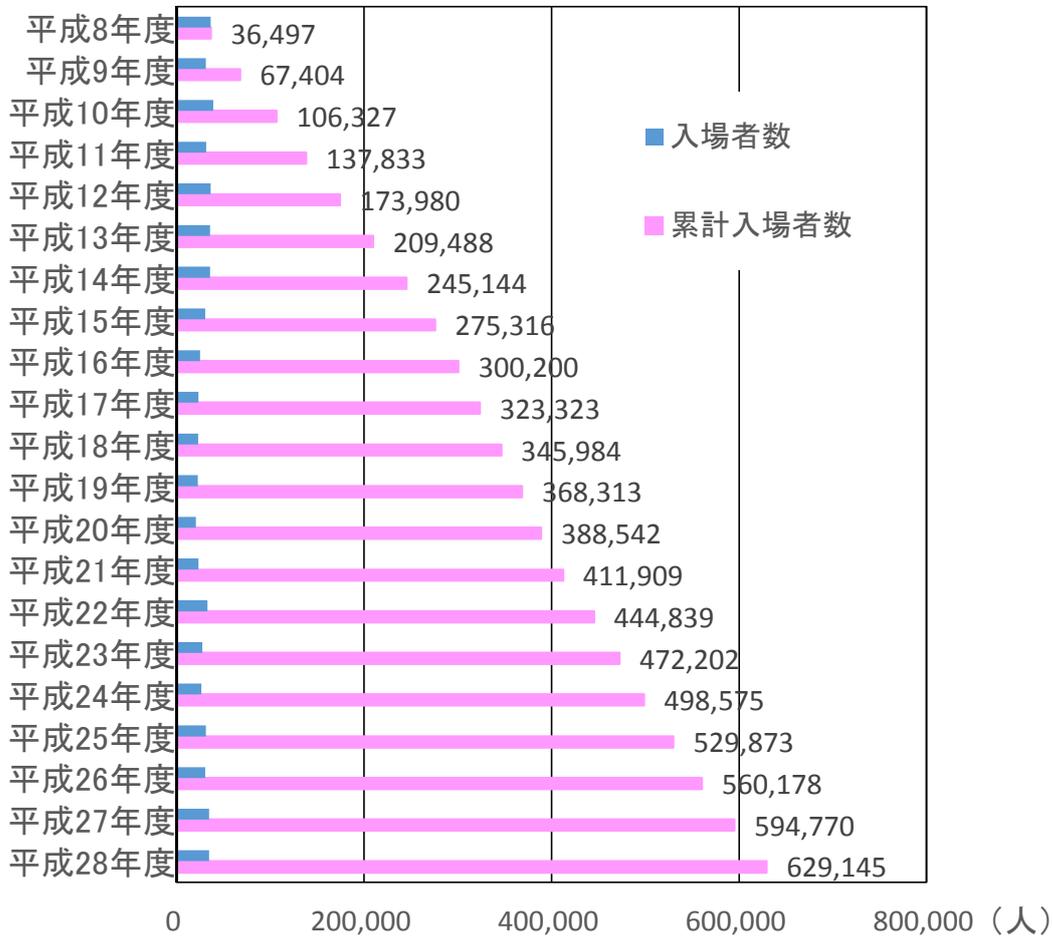
大滝ダムでは、地元市町村等、地域との関わりとして、ダム管理者主催のイベントとして、「大滝ダム見学新聞」の表彰式、「大滝ダム体験ツアー」、「ライトアップ in 大滝」で等を実施している。これらのイベントは、「大滝ダム・学べる防災ステーション」を活用して実施しており、施設の利用者の推移は（出典：紀の川ダム統合管理事務所資料）

図 7.4.2-1 に示すとおり、平成 25 年度に累計入場者数は 50 万人を超え、平成 28 年度までで 63 万人程度となっている。

「大滝ダム・学べる防災ステーション」は、大滝ダム建設中の平成 8 年に「大滝ダム学べる建設ステーション」を設け、ダム建設現場を間近に見学できるようにし、ダム完成後は「大滝ダム学べる防災ステーション」と名称を変更し、豪雨体験、ダムの役割を中心とした防災に関する校外学習の場として無料で開放している。

表 7.4.2-1 地域とダム管理者との関わり

名称	開催年月日	開催場所	内 容	主催者
ライトアップ in 大滝ダム	平成 26 年度	大滝ダム・学 べる防災ス テーション	・川上村で物産展やカヌーフェスティバル ・ダムのライトアップ、及びダム案内	紀の川ダム統合管理事務所
大滝ダム体験 ツアー	平成 26 年度～ 平成 28 年度	大滝ダム・学 べる防災ス テーション	・ダム施設見学会	紀の川ダム統合管理事務所
大滝ダム見学 新聞の表彰式 を開催	平成 24 年度～ 平成 28 年度	大滝ダム・学 べる防災ス テーション	・「ダム見学新聞」コンクールを開催 ・優秀作品の表彰 (コンクールは平成 8 年度にスタート)	紀の川ダム統合管理事務所



(出典：紀の川ダム統合管理事務所資料)

図 7.4.2-1 大滝ダム・学べる防災ステーションの入場者数の推移

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム湖周辺施設の設置状況

大滝ダム湖周辺施設の設置状況は、図 7.5.1-1、表 7.5.1-1 に示すとおりである。

国、川上村等が維持管理を行っている。周辺整備で建設された『大滝ダム・学べる防災ステーション』は小学校等の校外学習や一般来場者も多く、年々増加傾向にあり地域活性の核となっている。ただし、オオスギノトウ附近の駐車場に加えて、いなずま階段〜クモノタカダイまでの区間が維持管理費不足のため、現在閉鎖中となっている。



(出典：紀の川ダム統合管理事務所ウェブサイトより作成)

図 7.5.1-1 大滝ダム周辺環境整備事業概要図

表 7.5.1-1 ダム湖周辺施設の設置状況

施設名	設備
大滝ダム・学べる防災ステーション	人間の知恵がどのように「水」を治め、「水」を活用してきたかを「見て、聞いて、さわって」学習する施設
あきつの小野スポーツ公園	面積：18,000 平米 テニスコート3面(砂入り人工芝、ナイター照明完備2面)、ゲートボールコート2面(砂入り人工芝、ナイター照明完備1面)、パターゴルフ場9H、ちびっ子広場(アスレチック遊具)クラブハウス1棟(更衣室、シャワー完備)
吉野杉工房 (川上村木工センター)	吉野杉・吉野桧を中心に、様々な木材の表情を活かして、家具や雑貨小物の製作から販売に至るまで、一貫したものづくりを行っている。
匠の聚	芸術家の居住、創作の場としてのアトリエ(8棟)「匠の聚」アーティストの作品の常設展示しているギャラリー、カフェ、工房室、研修室がある。来客者の宿泊施設、コテージ(5棟)その他、穴窯、イベント広場、駐車場等。 運営は「一般財団法人グリーンパークかわかみ」が行う。
道の駅 杉の湯川上	物販施設(山幸彦のおみやげ屋) レストラン、トイレ、駐車場等を併設
森と水の源流館	「森と水の源流館」は、私たちの生活に欠かすことのできない「水」を育む豊かな森をはじめ、自然の持っている「美しさ、楽しさ、不思議さ」を多くの皆さんに知ってもらおう施設。源流の森の四季折々の自然の営みを体感できる再現ジオラマや巨大パノラマ映像、川に棲む生き物たちに出会える大形水槽や、たっぷり遊んで学べる体験プログラムなどが楽しめる。
白川渡オートキャンプ場	全面芝生20サイト、AC電源完備。 管理棟(男性・女性・障害者用トイレ、コインシャワー4台、コインランドリー2台) 炊事棟(1層シンク6台、調理台スノコ板付き10台、コイン給湯器2台)

(出典：紀の川ダム統合管理事務所ウェブサイトより作成)

7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

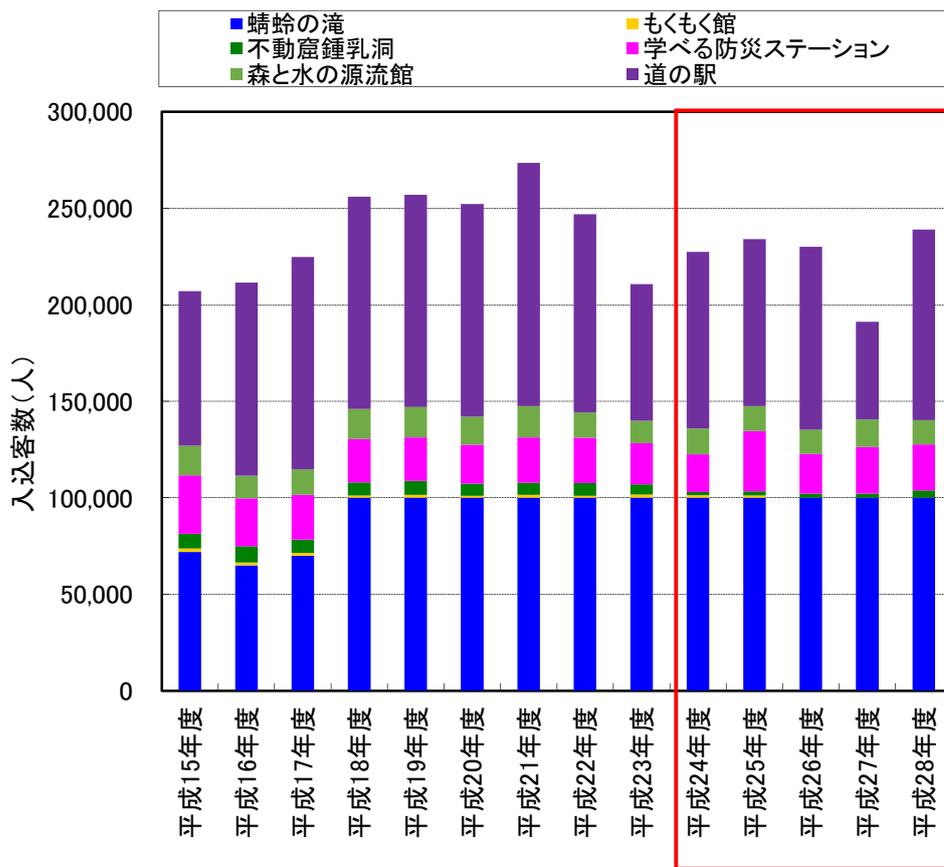
(1) ダム周辺施設の入込観光客数

ダム周辺施設の入込観光客数を（出典：川上村資料より作成）

図 7.5.2-1 に示す。

平成 21 年度までは増加傾向がみられたが、至近 5 年間では、最も多かった平成 21 年度と比べてやや少ない程度で変動している。

施設別にみると、蜻蛉の滝の利用者が最も多く、次いで道の駅となっている。平成 18 年度以降の全利用者数の変動は、主に道の駅の利用者の変動によって生じている。



（出典：川上村資料より作成）

図 7.5.2-1 ダム周辺施設の入込観光客数

(2) ダムカード配布状況

大滝ダムで配布しているダムカードを写真 7.5.2-1 に示す。

ダムカードは、国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムにおいて、ダムのことをより知って貰う目的でダムを訪問した方に配布している。

平成 24 年度は平成 25 年 3 月の竣工式での配布枚数である。平成 25 年度以降は年間の配布枚数が増加傾向にあり、平成 28 年度末までに累計 9,896 枚を配布している。

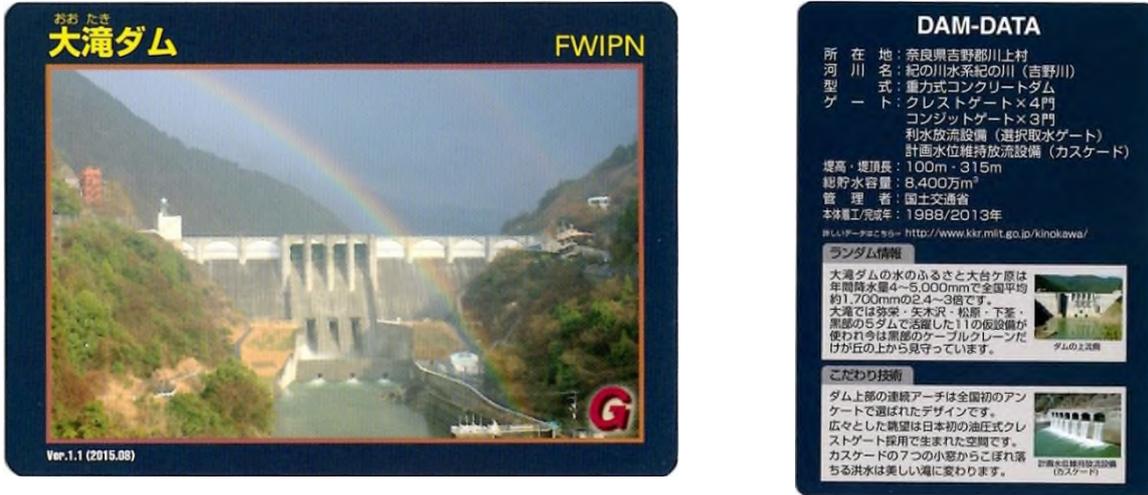
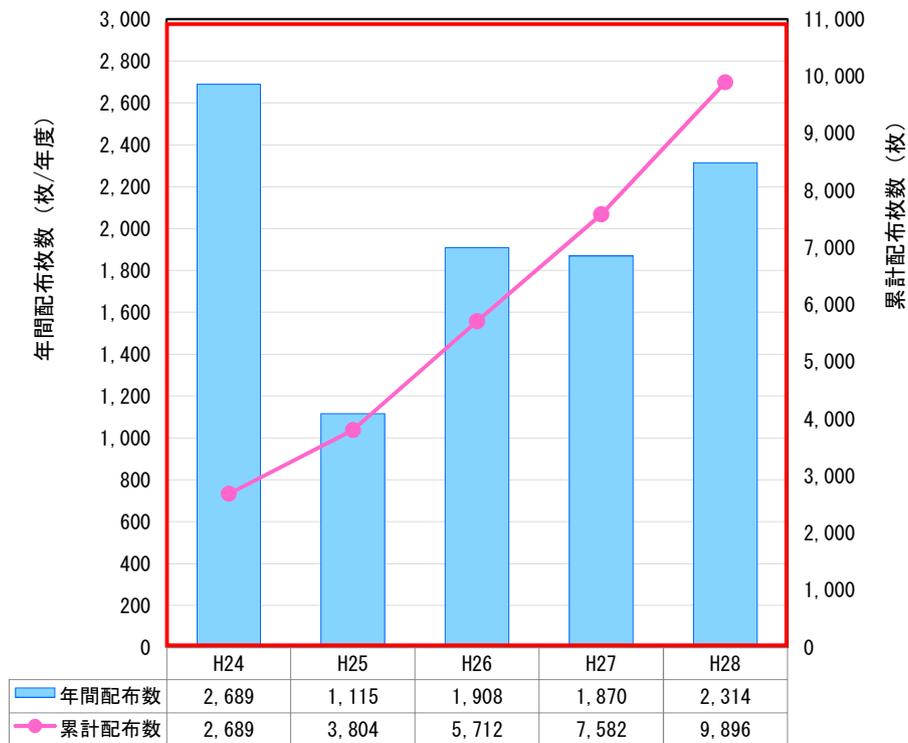


写真 7.5.2-1 大滝ダム ダムカード



注) 平成 24 年度は、平成 25 年 3 月の竣工式での配布枚数

図 7.5.2-2 ダムカードの配布枚数

7.5.3 ダム周辺のイベント等の開催状況

大滝ダム周辺で平成24年度～28年度にかけて開催されたイベントを表7.5.3-1、表7.5.3-2に示す。

ダム管理者主催のイベントとして、「大滝ダム見学新聞」の表彰式を実施している。ダム見学新聞の応募は平成8年度から実施しており、参加者は平成24年の11校、499人から平成28年には18校、1,020人に増加している。その他に、平成26年以降、「大滝ダム体験ツアー」を実施し、100人程度の参加があり、平成26年の「ライトアップ in 大滝」では、80人程度の参加があった。

その他に、平成25年には「モニターツアー②：森林と水と共存してきた吉野地域文化を学ぶ旅」、平成26年には「第5回全国源流サミット in 奈良県川上村」（約600人参加）、「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」(約330人参加)、平成28年には「川上村カヌーチャレンジ」が開催された。「川上村カヌーチャレンジ」は上北山村の「大台ヶ原マラソン」と連携して実施されたもので、(公社)スポーツ健康産業団体連合会及び(一社)日本スポーツツーリズム推進機構が、スポーツを通じて健康づくりをし、ツーリズムや産業振興、地域振興に貢献している団体を表彰する「第5回スポーツ振興賞」のスポーツ庁長官賞を受賞した。

表 7.5.3-1 (1) 大滝ダム周辺でのダム管理者が主催したイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H26	10月18日	ライトアップ in 大滝ダム	大滝ダム・学べる防災ステーション	紀の川ダム統合管理事務所	82人	第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～の1ヶ月前イベントとして、川上村で物産展やカヌーフェスティバル等の行事が行われ、それら諸行事とコラボし、大滝ダムではダムのライトアップ、及びダム案内を行った。 大滝ダムのライトアップは、ダム管理開始以降初めての実施。



(出典：大滝ダム年次報告書)

表 7.5.3-1 (2) 大滝ダム周辺でのダム管理者が主催したイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H26	7月27日	大滝ダム体験ツアー	大滝ダム・学べる防災ステーション	紀の川ダム統合管理事務所	96人	「大滝ダム堤体」の普段入れないコンジットゲート室やダイナミック広場において、ダムの役割や仕組み等の説明を行いながらの見学。「大滝ダム・学べる防災ステーション」では、映像や模型を見たり、過去に起こった豪雨を体験。
H27	7月26日				99人	
H28	8月6日				約100人	



ダム施設見学会(平成28年)

(出典：大滝ダム年次報告書)

表 7.5.3-1 (3) 大滝ダム周辺でのダム管理者が主催したイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H24	平成 25 年 2 月 24 日	大滝ダム見学 新聞の表彰式 を開催	大 滝 ダ ム ・ 学 べ る 防 災 ス テ ー シ ョ ン	紀の川ダム 統合管理事 務所	参加学校数 11 校、 応募人数 499 人	ダム見学新聞コ ンクール優秀作 品の表彰式を開 催。 コンクールは平 成 8 年度にスタ ートし、校外学 習で感じた事等 を学校の授業の 中で「ダム見学 新聞」としてま とめた作品を表 彰するための大 滝ダム「ダム見 学新聞」コンク ールを開催
H25	平成 26 年 3 月 16 日				参加学校数 11 校、 応募人数 593 人	
H26	平成 27 年 3 月 15 日				参加学校数 14 小学 校、713 人	
H27	平成 28 年 3 月 13 日				参加学校数 19 校、 1008 人	
H28	平成 29 年 3 月 12 日				参加学校数 18 校、 1020 人	



受賞者の記念撮影



入賞作品(抜粋)

(出典：大滝ダム年次報告書)

表 7.5.3-2 (1) 大滝ダム周辺でのその他のイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H25	12月7日	モニターツアー②： 森林と水と共存してきた吉野地 域文化を学ぶ旅	吉野町、 川上村	(株)JTB西 日本奈良 支店		吉野町林材振興協議 会、吉野町、川上村等 の地域、関係機関が JTB西日本奈良支店と の調整の元、自然と人 知が融合する吉野地 域文化を学ぶ旅(大滝 ダム特別見学付)を企 画



表 7.5.3-2 (2) 大滝ダム周辺でのその他のイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H26	9月5日 ～9月7日	第5回全国源流 サミット in 奈良 県川上村	奈良県吉 野郡川上 村	第5回全国 源流サミ ット実行委員 会	約600人	○第1日目(9/5)：開催地 視察 ○第2日目(9/6)：全国源 流の郷協議会サミット(首 長会議) ○第2日目(9/6)：全国源 流の郷・流域ミーティング ○第3日目(9/7)：川上村 エクスカージョン



ダイナミック広場からの視察風景



全国源流の郷協議会サミット(首長会議)

(出典：大滝ダム年次報告書)

表 7.5.3-2 (3) 大滝ダム周辺でのその他のイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H26	11月15日、16日	第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～	式典行事：大淀町文化会館あらかしホール 放流・歓迎行事：おおたき龍神湖 放流行事：吉野川大川橋下流河川敷 関連行事：JAならけんまほろばキッチン	豊かな海づくり大会推進委員会、第34回全国豊かな海づくり大会奈良県実行委員会	総勢約330名	「全国豊かな海づくり大会」は、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、水産業の振興と発展を図ることを目的として、天皇皇后両陛下ご臨席のもとに、毎年全国各地を廻りながら開催されている大会である。11月16日(日)には、おおたき龍神湖（大滝ダム湖）の宮の平地区で放流・歓迎行事が行われた。



▲ 放流の様子



▲ 水上歓迎行事の様子

(出典：大滝ダム年次報告書)

表 7.5.3-2 (4) 大滝ダム周辺でのその他のイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H28	5月21日	川上村カヌーチャレンジ	奈良県吉野郡川上村白川渡（川上村なめき特設会場）	主催：アウトドアチャレンジレース実行委員会 共催：奈良県・上北山村・川上村		カヌー教室 タイムトライアル カヌーツーリング

注) 平成 29 年は、悪天候のため川上村カヌーチャレンジは中止

表 7.5.3-2 (5) 大滝ダム周辺でのその他のイベント等開催状況

年	開催期間	行事等名	開催場所	主催	参加者	内容等
H22	H22.8.8	川上村遊水フェスタ	川上村「蜻蛉の滝」周辺	奈良県川上村	1000名	アマゴつかみ、物販等

(出典：大滝ダム年次報告書)

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）は、全国の直轄・水資源機構管理ダムを中心に、ダム事業、ダム管理を適切に推進するため、ダム湖及びダム周辺を環境という観点からとらえた、定期的、継続的、統一的なダムに関する基礎情報の収集整備を図ることを目的として行われるものであるが、大滝ダムは管理を開始してから間もないため、未実施である。

7.7 まとめ

大滝ダム湖周辺施設として、大滝ダム・学べる防災ステーションや道の駅等が設置され、国、川上村等が維持管理を行っている。

周辺施設の年間利用者数は、平成 21 年度までは増加傾向がみられたが、直近の 5 年間では、最も多かった平成 21 年度と比べてやや少ない程度で変動しており、施設別にみると、蜻蛉の滝の利用者が最も多く、次いで道の駅となっている。

ダム管理者主催のイベントとして、「大滝ダム見学新聞」の表彰式を実施しており、応募は、平成 28 年には 18 校、1,020 人に増加している。また、「大滝ダム・学べる防災ステーション」は小学校の校外学習や一般来場者も多く、類型利用者数が 60 万人程度となっている。

今後の方針として、水源地域の社会環境の変化を引き続き把握していくとともに、イベント等の機会を活用して、地域におけるダムの役割等についての広報・PR等の取組みを継続実施していく。

ダム湖周辺施設を活かしたイベント等に積極的に取り組むとともに、今後も引き続き地元自治体などと連携した活動を推進していく。

7.8 文献リスト

水源地域動態に係る整理のため、以下の資料を収集した。

表 7.6-1 使用資料リスト

No.	文献・資料名	発行者	発行年月	備考
7-1	大滝ダム年次報告書	国土交通省 近畿地方整備局	平成24年～平成28年	
7-2	国勢調査	総務省統計局	昭和40年～平成27年	人口、世帯数
7-3	奈良県統計年鑑	奈良県	昭和40年～平成27年	土地利用
7-4	ダム周辺施設観光入込客数	川上村	平成15年～平成28年	ダム周辺施設の利用状況
7-5	紀の川ダム統合管理事務所ウェブサイト	国土交通省近畿地方 整備局	—	
7-6	川上村ウェブサイト	川上村	—	
7-7	奈良県ウェブサイト	奈良県	—	奈良県自然公園等 区域図